

## 神戸大学での建築学

会の期間中、論文査読して頂いた土居先生と芦屋市のヨドコウ迎賓館（旧山邑家別邸）に行つてきた。

有機的建築で、近代建築の三大巨匠の一人

フランク・ロイド・

ライトが設計し、

遠藤新・南信が

実施設計したこの

迎賓館は、私も大

好きな建築物だ。

ライトが帝国ホテルの

設計の為に来日した時

に、弟子の遠藤新の学

友の義父という縁で、

造り酒屋・櫻正宗の山

邑太左衛門邸として建

を考へる、無抵抗な建築である”と南信が書いている。

昭和22年にヨドコウ

が買い取り、以降、社長

住宅、貸家、社員寮を

## 今日 つれづれ



神戸 睦史  
(ハウゼコ)

てられた。アメリカ以外でライトの住宅が残っているのは、この旧山邑邸のみである。大正14年の『新建築』9月号に”極めてよく四囲の環境に順応した建築

経て、昭和46年にマンションへの建替が計画された。帝国ホテルが壊されて3年後の事だ。急速に日本建築学会から陳情書を提出。なんと危機を免れることが

人気も無くひどい使われ方をしていた様だ。

この建物の中で逆光で写真を撮ると、細分化された窓からの光がちょうどいい具合に差しこみ、かつこいい写真が撮れる。計算され

つくされた光の設計だ。順光だとなんの変哲も無い家になってしまう。

この建物はオール電化住宅で、1年間

できた。それまで、建築界にもこの建物を知る人は少なかつたらしく。ヨドコウの古参社員の方に話を聞くと、このあまり快適ではない寮は、

昭和22年にヨドコウ

が買い取り、以降、社長

住宅、貸家、社員寮を

電化住宅で、1年間の使用電力はなんと3万kWh！沿線の私鉄

から直接契約して電気

を引き込んだそうだ！

現在の建築家からは非